令和７年度　宮島小学校・宮島中学校　学校経営計画

Ⅰ　学校の状況

○　正式学校名：廿日市市立宮島小学校・廿日市市立宮島中学校
　　愛　　称：宮島学園（宮島小・中学校）

○　学　級　数：12 学級
　　小学校　７学級（１年、２年、３年、４年、５年、６年、自・情）
　　中学校　５学級（７年、８年、９年、自・情、知的）
　　通級指導教室（小中併せて開設）

○　学園生数　１５１名（４月１日現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	7年	8年	9年	計	総計
男子	7(1)	11(3)	10(1)	8	4(1)	9(1)	49	9	11(3)	12(1)	32	81
女子	7	9	7	9	7	10	49	7	4	10	21	70
計	14	20	17	17	11	19	98	16	15	22	53	151
島内	6	12	8	7	6	8	47	9	4	7	20	67
島外	8	8	9	10	5	11	51	7	11	15	33	84

○　校　　長：伊豆田　智子

○　教職員数：（常　勤）　25名（小学校籍：13　中学校籍：12）
　　：（非常勤）　20名（講師：7　支援員等：9）　　SC・SSW・ALT・用務

Ⅱ　校　訓

（小）　美こそは島のいのちです　美しくいたしましょう
　　自然も人も　美しくなりましょう　心も形も
（中）　永久に生きるつもりで学べ　明日死ぬつもりで行え
（現代解釈）　美しい豊かな未来のために　先人に学び　今を生きる

Ⅲ　学校教育目標

自己の未来を切り開いていく児童生徒の育成
～　継承と創造　協働と貢献　～

Ⅳ　経営方針

１　学校経営目標

義務教育９年間を見通した豊かな発想と系統的かつ横断的な思考で、組織的に小中一貫教育を行う。

２　経営理念

（１）　ミッション（目の前の目標）：本校の使命**「宮島にある学校とは」とは？**
　○　小中一貫教育と地域の財産を最大限に活かした教育を行う学校

（２）　ビジョン（目指す学校像）：本校の教育**「宮島にある学校で教えること」とは？**
　○　宮島の未来を地域と共に創る学校
　○　多様性な学園生が安心して学べる学校

（３）　めざす学園生像

○　あいさつのできる子（おもてなしの基本）
○　資質・能力を身に付けた子（生涯を通して活かせる力の基礎づくり）
・伝える力（表現する力）
・おもてなし力・見つめる力（自己を認識する力・自分の人生を選択する力）
○　宮島に思いを馳せる子（誇らしい体験による自己実現）

（４）　めざす教職員像
○　９年間の発達特性と多様性に対応できる教職員
○　自身の能力を協働に活かそうとする教職員
○　宮島に思いを馳せる教職員

３　中期経営目標

（１）　「令和の日本型教育」の実践とユネスコ・スクール実践の場として、地域の特色と地域の財産を最大限に生かした教育活動を行い、自己の将来、宮島の将来を考える力を育成する。

（２）　小中一貫教育のよさを最大限に生かし、多様な学園生（障害や発達特性・外国籍・学校不適応…）が、安心できる環境（学びの場・指導体制）を提供する。

（３）　保護者・地域の教育力を活かし協働と貢献による「社会に開かれた教育課程」を推進する。

（４）　保護者や地域に信頼される教職員集団を形成する。

４　中期経営目標達成に向けた取組

（１）　主体的・協働的に課題を解決する児童生徒の育成をめざす。

○　小中教職員の協働による授業研究・授業交流を通して、表現力の向上を目指した単元構想に基づく授業づくりを推進する。
・授業を「本質的な問い」、「表現力」、「協働」、「評価（価値づけ）」、「振り返り」の５つの視点から見直し単元を構想し、授業実践を積み重ねる。
・キャリア教育の視点に立った指導を充実させる。
・発達段階に即した生命の安全教育を推進する。
・ＩＣＴの効果的な活用とデジタルシチズンシップ教育を促進する。
・児童生徒の自治的活動を充実させ、支援する。

○　地域の特色と財産をＳＤＧｓの視点で教育内容をとらえ直し、持続可能な社会づくりへつながる学習活動として価値づける。
・生活科・総合的な学習の時間を中心に、学びの系統性（縦のつながり）を明確にし、「知りたい」「伝えたい」「貢献したい」といった能動的な学びを発達段階に応じて確立する。

・ユネスコ・スクール実践（ＥＳＤ）の場として、世界遺産である宮島の学習活動を行うことで、自らが「宮島のよさを未来につなげる」という自覚が持てるようにする。
（自分たちは役に立つ活動をしている＝ＰＢＬ：地域の課題解決）

○　幼保小連携（架け橋プログラム）を推進する。
○　宮島の自校給食のメリットを生かした「知識と体験」による食育を推進する。

（２）　小中一貫教育小規模校のメリットを生かした多様な学園生が安心して過ごせる体制の強化

○　４・３・２制（ブロック制）のメリットと学校や学級がいじめや不登校の起こりにくい居場所となることを意識し、学園生が主体的に活動できる場面の設定やお互いを認め合うことができる取組を意図的に仕組むことにより、自己有用感や自己指導能力を高めていく。

○　発達段階を意識した健康の保持増進・体力向上のための一貫した取組を充実する。

○　学園生の多様性に応じ、自分らしく安心して過ごせる適応指導教室（ひだまりルーム）等の環境と多様な学び方（特別支援学級・通級指導教室・日本語指導教室・リモート学習等)）を整える。

○　学園生や保護者の願いに寄り添い、専門家や関係機関と連携できる体制を整備し、組織的に対応する。

（３）　宮島学園学校運営協議会（宮島学園コミュニティスクール）の確立

○　宮島学園コミュニティスクール（宮島学園学校運営協議会）の活性化による、「開かれた教育課程」の実現に向け、保護者や地域の「期待・願い」を大事に受け止め、信頼関係を築き、地域の教育力を生かす。

○　成果をあげている小中一貫教育校との交流から、優れた点を学び、実行可能なことから改善に生かしていく。（小中一貫教育小規模校連絡協議会）

（４）　ウェルビーイングを実現する教職員集団の形成

○　ユニバーサルデザインの考えに基づき、教職員が一体となって（小中の枠を超えて）学園の運営にあたる。

○　教職員個々の持ち味を素直に発揮し合える心理的安全性の高い職場をめざす。

・組織（「報連相」「決めたことは確実に行う」）で動く。
・教育公務員として、服務規律の確保と子どもの範となる振る舞いをする。
・学園生のがんばりや成長（プラス面）を話題にする。
・「子どもと向き合う時間の確保」と働き方改革の折り合いをつけ、業務改善を推進する。（責任の平準化と協働）

○　教師自身が「宮島」を楽しむ。

・宮島で行われる様々な伝統行事に可能な限り参加・協力し、宮島のよさに触れる。
・宮島のまちづくりの動向にも注目し、宮島の抱える課題に関心を持つ。